

原 著

乳幼児を持つ母親の育児不安と日常の育児相談相手との関連：
健やか親子21最終評価の全国調査より

ヤマザキ 山崎 さやか ^{*、2*}	シノハラ 篠原 亮次 ^{3*}	リョウジ 秋山 有佳 ^{4*}	アキヤマ ユカ
イチカワ 市川 カオリ ^{5*}	オジマ 尾島 トシユキ ^{6*}	タマコシ 玉腰 コウジ ^{7*}	ヨウジ 浩司
マツウラ 松浦 ケンチョウ ^{8*}	ヤマザキ 山崎 ヨシヒサ ^{9*}	ヤマガタゼン 山縣 然太郎 ^{4*}	タロウ

目的 健やか親子21の最終評価における全都道府県の調査データを使用し、母親の育児不安と母親の日常の育児相談相手との関連を明らかにすることを目的とした。

方法 対象は、2013年4月から8月の間に乳幼児健診を受診した児の保護者で調査票に回答した75,622人（3～4か月健診：20,729人，1歳6か月健診：27,922人，3歳児健診：26,971人）である。児の年齢で層化し、育児不安（「育児に自信が持てない」と「虐待しているのではないかと思う」の2項目）を目的変数、育児相談相手および育児相談相手の種類数を説明変数、属性等を調整変数とした多重ロジスティック回帰分析を実施した。

結果 育児に自信が持てない母親の割合と、虐待しているのではないかと思う母親の割合は、児の年齢が上がるにつれて増加した。すべての年齢の児の母親に共通して、相談相手の該当割合は「夫」が最も多く、相談相手の種類数は「3」が最も多かった。また、「夫」、「祖母または祖父」を相談相手として選んだ母親は、選ばなかった母親と比べてオッズ比が有意に低かった。一方、「保育士や幼稚園の先生」、「インターネット」を相談相手として選んだ母親は、選ばなかった母親と比べてオッズ比が有意に高かった。育児不安と相談相手の種類数との関連については、すべての年齢の児の母親に共通した有意な関連はみられなかった。一方、児の年齢別にみると、1歳6か月児と3歳児の母親において、相談相手が誰もいないと感じている母親は、相談相手の種類数が「1」の母親と比べてオッズ比が有意に高く、「虐待しているのではないかと思う」の項目では、相談相手の種類数が「1」の母親と比べると、相談相手の種類数が「3」、「4」、「5」の母親はオッズ比が有意に低かった。

結論 相談相手の質的要因では、すべての年齢の児の母親に共通して有意な関連がみられた相談相手は、夫または祖父母の存在は育児不安の低さと、保育士や幼稚園教諭、インターネットの存在は育児不安の高さととの有意な関連が示された。相談相手の量的要因（相談相手の種類数）では、幼児期の児を持つ母親においては、相談相手の種類数の多さが育児不安を低減させる可能性が示唆された。

Key words : 育児不安, ソーシャル・サポート, 相談, 健やか親子21

日本公衆衛生雑誌 2018; 65(7): 334-346. doi:10.11236/jph.65.7_334

I 緒 言

近年、核家族化、地縁の希薄化、父親の長時間労働、

少子化など、社会構造の変化によって母親の育児不安が増大している¹⁾。健やか親子21の最終評価においても、母親の主観的な育児不安に関わる項目

* 健康科学大学看護学部看護学科

2* 山梨大学大学院医工農学総合教育部修士課程生命医学専攻

3* 健康科学大学健康科学部理学療法学科

4* 山梨大学大学院総合研究部社会医学講座

5* 文京学院大学保健医療技術学部看護学科

6* 浜松医科大学医学部健康社会医学講座

7* 名古屋大学医学部保健学科看護学専攻

8* 福岡県立大学看護学部ヘルスプロモーション看護学系

9* あいち小児保健医療総合センター

責任著者連絡先：〒409-3898 中央市下河東1110

山梨大学大学院総合研究部社会医学講座

山縣然太郎

は改善されていなかったと報告している²⁾。これまで、育児不安、育児困難、育児ストレスなどとその関連要因についての調査研究は数多く報告されており、子どもの人数^{3,4)}、子どもの年齢^{3,5)}、母親の就業状況^{3~7)}、夫との関係⁵⁾、居住地域⁴⁾、育児観⁸⁾などとの関連が示されている。その中でもとくに、母親のソーシャル・サポートとの関連に関する研究成果について多くの蓄積がある。

母親へのソーシャル・サポートは育児の援助そのものを示す手段的サポートと、悩みを聞いたり相談にのったりすることを示す情緒的サポートとに分けて研究されることが多い。ソーシャル・サポートの中でも、とりわけ情緒的サポートが育児不安の緩和に重要な役割を担うとされている。乳幼児を持つ母親の育児に対する否定的感情は情緒的サポートと強い相関があることが報告されており^{9,10)}、母親の育児相談相手は育児不安の緩和において重要である。また、育児について相談できる人がいないことはディストレス（ストレスを上手に処理できず、心身が不調に陥ること）の高さ¹¹⁾や、抑うつ得点の高さとの関連が報告されている^{12,13)}。育児について気軽に相談できる人がいないことが育児困難感の関連要因であるという報告¹⁴⁾もあり、相談できる人がいるという情緒的サポートがないと育児困難感を抱きやすい可能性を示唆している。これら先行研究から、母親の育児相談相手は育児不安を低減するための重要なサポート源であると考えられる。

一方、母親の育児相談相手が誰かという質的要因に加え、育児相談相手の種類数も育児不安に関連する要因と推察される。特定のサポート源の違いよりもサポート源の数が育児ストレスと関連があること¹⁵⁾、育児に何らかの形で関わっている人の数が多いほど母親の育児不安が低くなること¹⁶⁾が報告されており、育児相談相手の種類数は育児不安を低減させる重要な要因であると考えられる。

しかし、母親のソーシャル・サポート研究において、母親の育児不安と育児相談相手および育児相談相手の種類数との関連を全国的に検討した研究はみられない。

そこで本研究では、健やか親子21の最終評価における全都道府県の調査データを使用し、母親の育児不安と日常の育児相談相手との関連を明らかにすることを目的とした。

II 研究方法

1. 対象

健やか親子21最終評価実施対象となった472市区町村に居住し、調査期間内に乳幼児健康診査に該当

した児の保護者である。市区町村選別方法は、各都道府県別の人口規模別に県庁所在地を1か所含む各10の市区町村（約472か所）を選別した。各市区町村の各健診最大を200件として各市区町村からの送付希望枚数に従い合計12万枚の調査票を送付した。各市区町村の母子保健担当課から「親と子の健康度調査アンケート」を乳幼児健診の対象となった保護者に記入を依頼し、健診時に回収した。調査期間の2013年4月から8月の間に乳幼児健診を受診した児の保護者で調査票に回答したのは75,622人（3~4か月児健診；20,729人：回収率89.3%，1歳6か月児健診；27,922人：回収率83.9%，3歳児健診；26,971人：回収率82.0%）であった。

2. 分析方法

1) 分析に使用した変数

(1) 母親の育児不安

本研究の目的変数は母親の「育児不安」である。なお、育児不安、育児困難、育児ストレスなどの言葉に統一した概念はなく、本研究では「育児に自信が持てない」、「虐待しているのではないかと思う」の2項目で操作的定義をした。2項目の選定理由としては、健やか親子21の指標において重要な課題として挙げられており、かつ先行研究で示された育児不安尺度の下位項目から選別した^{8,17)}。

「お母さんは育児に自信が持てないことがありますか」の質問に対して「はい・何ともいえない」を選択した母親を、育児に自信が持てない母親とした。

「お母さんは子どもを虐待しているのではないかと思うことがありますか」の質問に対して「はい・何ともいえない」を選択した母親を、虐待しているのではないかと思う母親とした。2つの目的変数は、育児不安研究の先駆者である牧野の定義を参考にして「何ともいえない」を「はい（育児に自身が持てない・虐待しているのではないかと思う）」へ再カテゴリー化した。牧野は育児不安を「子の現状や将来あるいは育児のやり方や結果に対する漠然とした恐れを含む情緒の状態」と操作的定義し、母親自身も不安の状態を明確に意識しているとは限らないと述べている¹⁸⁾。この牧野の見解をふまえて、「何ともいえない」を選択した母親は、育児の中で漠然とした恐れ感情（育児不安）を抱えていると解釈し、「何ともいえない」は「はい（育児に自身が持てない・虐待しているのではないかと思う）」に再カテゴリー化した。

(2) 母親の相談相手

説明変数は、「母親の日常の育児相談相手（以下：相談相手）」と、「母親の日常の育児相談相手の種類数（以下：相談相手の種類数）」の2項目を使用し

た。

「相談相手（質的要因）」については、「お母さんにとって日常の育児の相談相手は誰ですか（複数回答）」の質問に対して「夫婦で相談する・祖母または祖父・近所の人・友人・かかりつけの医師・保健師や助産師・保育士や幼稚園の先生・電話相談・インターネット・その他・誰もいない」の11の選択肢において「誰もいない」を除外した10の選択肢から回答者が選んだ各相談相手である。相談相手として「いる」、「いない」の2つにカテゴリー化し、相談相手として「いない」を参照カテゴリーとした。相談相手（質的要因）の分析の目的は、他の要因を調整して、各相談相手の存在がどのように育児不安と関連しているかを究明することであるため、「誰もいない」は分析から除外した。

「相談相手の種類数（量的要因）」については、「お母さんにとって日常の育児の相談相手は誰ですか（複数回答）」の質問に対する11の選択肢において「誰もいない」に「0」を割り当て、回答者が選んだ選択肢が追加されるごとに1ずつ加算した選択肢の数を相談相手の種類数とした。

本研究では先行研究^{15,16)}を参照し、相談相手の種類数が増えるごとに母親の育児不安が低減するという仮説を検証するため、相談相手の種類数が「1」を参照カテゴリーとした。

(3) 共変量

先行研究を参照し、本研究では母親の出産時の年齢、母親の就業状況、暮らしの経済状況、夫の育児、児の性別、児の出生順位、居住市区町村を調整変数とした。都市度が高いほど個人の近距離親族数と隣人数が減少することが先行研究で示されている¹⁹⁾ため、都市度を交絡要因と考え居住市区町村を調整変数として投入した。従来の都市度尺度としては自治体人口が多く用いられているが、同じ人口規模でも周辺に都市的な地域が多くない地方都市と、東京都のように周辺にも都市的な地域が多い地域では、日常的に人や文化に接する機会が異なるため都市度も異なるとの指摘がある²⁰⁾。この見解を参照し日常的に接触可能な人口や交通網などの都市度を考慮して、4つの市区町村カテゴリーを作成した。最も平均的な居住自治体と考えられる「市」を参照カテゴリーとした。

2) 統計手法

統計解析は、児の年齢で層化し（3～4か月児、1歳6か月児、3歳児）、多重ロジスティック回帰分析（強制投入法）を実施した。説明変数とした相談相手と相談相手の種類数は、同じ質問から作成した変数であり、多重共線性を回避するために同時に投

入せず、別々に分析を実施した。いずれもオッズ比および95%信頼区間を算出し、統計学的有意水準を5%とした。感度分析として、目的変数のカテゴリーを、「はい/いいえ・何ともいえない」に再カテゴリー化して分析を実施した。分析はIBM SPSS Statistics ver21.0で実施された。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮として、山梨大学医学部倫理委員会の承認を得ている（受付番号1119, 2013年10月9日）。

Ⅲ 研究結果

調査協力が得られた母親の基本属性を表1に示した。すべての年齢の児の母親において、出産時の年齢分布は30～34歳が最も多く、居住している市区町村の割合の大きな違いはみられなかった。

目的変数と説明変数の児の年齢別各割合を表2に示した。育児に自信が持てない母親の割合と、虐待しているのではないかと思う母親の割合は、児の年齢が上がるにつれて増加した。すべての年齢の児の母親において、相談相手の該当割合は「夫」が最も多く、相談相手の種類数は「3」が最も多かった。相談相手の種類数別にみた相談相手の構成を表3に示した。相談相手は夫や祖母または祖父が基本となり、他の相談相手が追加されて種類数が増えていった。

母親の育児不安（「育児に自信が持てない」と「虐待しているのではないかと思う」の2項目）を従属変数とした多重ロジスティック回帰分析結果を表4と表5に示した。すべての年齢の児の母親に共通して、「夫」、「祖母または祖父」を相談相手として選んだ母親は、選ばなかった母親と比べてオッズ比が有意に低かった。一方、「保育士や幼稚園の先生」、「インターネット」を相談相手として選んだ母親は、選ばなかった母親と比べてオッズ比が有意に高かった。児の年齢別にみると、育児不安とそれぞれの相談相手との関連（オッズ比）に大きな違いはみられなかった。

相談相手としての医師の存在は「育児に自信が持てない」では1歳6か月と3歳児の母親で有意にオッズ比が低く、「虐待しているのではないかと思う」では3,4か月と1歳6か月児の母親で有意にオッズ比が低かった。一方、相談相手としての保健師や助産師の存在は「育児に自信が持てない」では3,4か月と3歳児の母親で有意にオッズ比が高く、「虐待しているのではないかと思う」では1歳6か月と3歳児の母親で有意にオッズ比が高かった。

育児不安と相談相手の種類数との関連については、すべての年齢の児の母親に共通した有意な関連

表1 基本属性

項 目	3~4 か月 (N=20,729)		1 歳 6 か月 (N=27,922)		3 歳 (N=26,971)	
	n	%	n	%	n	%
母親の出産年齢						
～19歳	237	1.1	293	1.0	286	1.1
20～24歳	2,053	9.9	2,920	10.5	3,105	11.5
25～29歳	6,000	28.9	8,331	29.8	8,073	29.9
30～34歳	7,122	34.4	9,575	34.3	9,626	35.7
35～39歳	4,397	21.1	5,749	20.6	4,991	18.5
40歳～	825	4.0	936	3.4	755	2.8
無効回答	95	0.5	118	0.4	132	0.5
母親の就業状況						
就業している	2,306	11.1	12,830	45.9	14,798	54.9
就業していない	11,778	56.8	12,955	46.6	9,925	36.8
育児休業中	6,195	29.9	1,091	3.9	1,192	4.4
無効回答	450	2.2	1,046	3.7	1,056	3.9
暮らしの経済状況						
苦しい	6,494	31.4	8,616	30.8	8,293	30.7
普通	11,145	53.8	15,000	53.7	14,613	54.2
ゆとりがある	2,619	12.6	3,256	11.6	3,001	11.1
無効回答	471	2.3	1,050	3.8	1,064	3.9
夫の育児						
やっている	18,454	86.0	23,605	84.5	22,079	81.8
ほとんどしない	1,510	7.3	2,599	9.3	2,772	10.3
無効回答	765	3.7	1,718	6.2	2,120	7.9
児の性別						
男	10,602	51.1	14,105	50.5	13,739	50.9
女	9,900	47.8	13,543	48.5	12,998	48.2
無効回答	227	1.1	274	1.0	234	0.9
児の出生順位						
第1子	9,325	45.0	12,741	45.6	12,677	47.0
第2子	7,601	36.7	10,341	37.0	9,985	37.0
第3子	2,944	14.2	3,875	13.9	3,483	12.9
第4子以降	742	3.6	843	3.0	706	2.6
無効回答	117	0.6	122	0.4	120	0.4
居住している市区町村						
市†	15,835	76.4	22,254	79.7	21,338	79.1
政令指定都市	1,247	6.0	1,455	5.2	1,302	4.8
町村	3,181	15.3	3,773	13.5	3,937	14.6
特別区	466	2.2	440	1.6	394	1.5

†「市」は、中核市、特例市、中都市、小都市を含む。

はみられなかった。一方、児の年齢別にみると、1歳6か月児と3歳児の母親において、相談相手が「誰もいない」と回答した母親は、相談相手の種類数が「1」の母親と比べてオッズ比が有意に高く、「虐待しているのではないかと思う」の項目では、相談相手の種類数が「1」の母親と比べると、相談相手の種類数が「3」、「4」、「5」の母親はオッズ比

が有意に低かった。

感度分析において、目的変数を「はい/いいえ・何ともいえない」に再カテゴリー化をして分析を実施した結果、オッズ比に大きな違いは見られなかった。

表2 目的変数と説明変数の児の年齢別各割合

	3~4 か月 (N=20,729)		1歳6か月 (N=27,922)		3 歳 (N=26,971)	
	n	%	n	%	n	%
【目的変数：育児不安（2項目）】						
育児に自信が持てない						
はい	4,195	20.2	7,356	26.3	7,457	27.6
いいえ	6,486	31.3	7,776	27.8	7,030	26.1
何ともいえない	9,604	46.3	11,619	41.6	11,363	42.1
無効回答	444	2.1	1,171	4.2	1,121	4.2
虐待しているのではないかと思う						
はい	880	4.2	2,458	8.8	3,746	13.9
いいえ	17,714	85.5	20,536	73.5	16,778	62.2
何ともいえない	1,610	7.8	3,775	13.5	5,327	19.8
無効回答	525	2.5	1,153	4.1	1,120	4.2
【説明変数：相談相手・相談相手の種類数】						
相談相手						
夫	17,142	82.7	21,923	78.5	20,367	75.5
祖母または祖父	16,237	78.3	20,608	73.8	18,829	69.8
近所の人	1,947	9.4	3,133	11.2	3,378	12.5
友人	13,328	64.3	17,815	63.8	17,293	64.1
医師	2,169	10.5	2,517	9.0	1,660	6.2
保健師や助産師	1,831	8.8	1,050	3.8	629	2.3
保育士や幼稚園の先生	2,599	12.5	7,728	27.7	9,978	37.0
電話相談	206	1.0	179	0.6	103	0.4
インターネット	3,703	17.9	2,684	9.6	2,342	6.2
その他	2,021	9.8	2,682	9.6	2,342	8.7
無効回答	490	2.4	1,130	4.0	1,209	4.5
相談相手の種類数						
誰もいない (0)	29	0.1	51	0.2	99	0.4
1	1,784	8.6	2,603	9.3	2,817	10.4
2	4,857	23.4	6,540	23.4	6,310	23.4
3	7,424	35.8	9,317	33.4	8,503	31.5
4	4,075	19.7	5,588	20.0	5,579	20.7
5	1,479	7.1	1,946	7.0	1,849	6.9
6以上	587	2.8	736	2.6	599	2.2
無効回答	494	2.4	1,141	4.1	1,215	4.5

IV 考 察

1. すべての年齢の児の母親に共通した育児不安と相談相手との関連

1) 家族のサポートとの関連

育児不安と家族のサポートとの関連については、相談相手として「夫」、「祖母または祖父」を選んだ母親は、「夫」、「祖母または祖父」を選ばなかった母親よりも育児不安が低かった。この結果は、夫との関係が母親の育児不安の重要な要素であること²¹⁾、育児不安と関連のあるサポートは夫、夫の両

親からのサポートであること²²⁾、相談のサポート・ネットワークに配偶者がいることは母親の不安や育児負担感、ストレス抑制に関連すること²³⁾を報告した先行研究の結果と一致した。

本研究は、全国データを使用して、母親の育児不安と家族の情緒的サポートとの関連を児の年齢で層化して検討した結果であり、先行研究結果の一般化を補強できる可能性があると考えられる。

相談相手が母親の育児不安を低減させるメカニズムについて、渡辺ら²⁴⁾は、身近なサポートの認知は自己効力感の行動の積極性を介し、育児ストレスを

表3 相談相手の種類数別にみた相談相手の構成

項目	1 (n=1,784)		2 (n=4,857)		3 (n=7,424)		4 (n=4,075)		5 (n=1,479)		6 (n=417)	
	構成	n	構成	n	構成	n	構成	n	構成	n	構成	n
3~4か月児の母親												
相談相手の種類数†												
最も多い	夫	753	夫, 祖母	2,358	夫, 祖母, 友人	4,386	夫, 祖母, 友人, インターネット	980	夫, 祖母, 友人, インターネット, 医師	178	夫, 祖母, 友人, インターネット, 医師, 保健師	53
2番目	祖母	625	夫, 友人	824	夫, 祖母, インターネット	417	夫, 祖母, 友人, 保育士	621	夫, 祖母, 友人, インターネット, 保健師	149	夫, 祖母, 友人, 医師, 保育士	45
3番目	友人	241	祖母, 友人	744	夫, 祖母, その他	347	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人	530	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 保育士	141	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 医師, 保育士	44
1歳6か月児の母親												
相談相手の種類数†												
最も多い	夫	1,095	夫, 祖母	2,594	夫, 祖母, 友人	5,061	夫, 祖母, 友人, 保育士	2,091	夫, 祖母, 友人, 保育士, 医師	386	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 医師, 保育士	123
2番目	祖母	851	夫, 友人	1,314	夫, 祖母, 保育士	830	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人	808	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 保育士	382	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 医師, 保育士, インターネット	98
3番目	友人	396	祖母, 友人	1,089	夫, 友人, 保育士	545	夫, 祖母, 友人, インターネット	536	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 保育士, インターネット	242	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 保育士, インターネット	44
3歳児の母親												
相談相手の種類数†												
最も多い	夫	1,130	夫, 祖母	2,139	夫, 祖母, 友人	4,077	夫, 祖母, 友人, 保育士	2,866	夫, 祖母, 友人, 保育士, 近所の人の人	635	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 医師, 保育士	169
2番目	祖母	787	夫, 友人	1,347	夫, 祖母, 保育士	1,009	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人	772	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 保育士	327	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 医師, 保育士, インターネット	69
3番目	友人	573	祖母, 友人	1,051	夫, 友人, 保育士	862	夫, 祖母, 友人, インターネット	234	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 保育士, インターネット	214	夫, 祖母, 友人, 近所の人の人, 保育士, インターネット	54

†「1」~「6」は相談相手の種類数を表す。*「祖母」は「祖母または祖父」,「保育士」は「保育士や幼稚園の先生」,「保健師」は「保健師や助産師」を表す。

表4 「育児に自信が持てない」を従属変数とした多重ロジスティック回帰分析結果

	相 談 相 手						相談相手の種類数					
	3~4 か月		1 歳 6 か月		3 歳		3~4 か月		1 歳 6 か月		3 歳	
	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI
相談相手*												
夫	0.88	0.80-0.97	0.79	0.73-0.87	0.81	0.74-0.88						
祖母または祖父	0.83	0.77-0.90	0.85	0.79-0.91	0.82	0.77-0.88						
近所の人	0.90	0.82-1.00	0.87	0.80-0.95	0.95	0.87-1.04						
友人	0.91	0.86-0.98	0.98	0.93-1.04	0.91	0.85-0.97						
医師	0.92	0.83-1.01	0.85	0.77-0.93	0.85	0.76-0.96						
保健師や助産師	1.13	1.01-1.27	1.11	0.96-1.29	1.51	1.22-1.87						
保育士や幼稚園の先生	1.12	1.02-1.24	1.07	1.01-1.15	1.15	1.08-1.22						
電話相談	1.24	0.89-1.73	1.46	0.99-2.14	2.16	1.17-3.99						
インターネット	1.20	1.10-1.31	1.35	1.22-1.49	1.36	1.19-1.55						
その他	0.99	0.89-1.10	0.95	0.86-1.04	0.93	0.84-1.03						
相談相手の種類数												
誰もいない (0)							1.35	0.53-3.42	2.97	1.16-7.61	3.18	1.45-6.97
1							ref		ref		ref	
2							1.03	0.91-1.16	1.06	0.95-1.18	1.01	0.91-1.13
3							0.93	0.83-1.05	0.96	0.86-1.06	0.88	0.79-0.98
4							1.02	0.90-1.16	0.90	0.80-1.00	0.94	0.84-1.05
5							0.96	0.82-1.12	0.95	0.83-1.08	0.87	0.75-1.00
6以上							0.76	0.62-0.94	0.91	0.76-1.10	0.92	0.75-1.13
母親の出産時の年齢												
~19歳	0.47	0.35-0.63	0.53	0.39-0.71	0.58	0.42-0.79	0.47	0.35-0.63	0.53	0.39-0.72	0.58	0.42-0.80
20~24歳	0.63	0.56-0.70	0.67	0.61-0.74	0.77	0.69-0.85	0.62	0.56-0.70	0.67	0.61-0.74	0.76	0.69-0.84
25~29歳	0.84	0.78-0.91	0.88	0.82-0.95	0.91	0.84-0.97	0.84	0.78-0.91	0.88	0.82-0.95	0.89	0.83-0.96
30~34歳	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
35~39歳	1.00	0.92-1.09	0.94	0.87-1.02	0.93	0.86-1.01	1.01	0.93-1.10	0.95	0.88-1.02	0.94	0.87-1.02
40歳~	0.96	0.81-1.13	0.86	0.74-1.01	0.98	0.82-1.18	0.98	0.83-1.16	0.88	0.75-1.03	1.01	0.85-1.21
母親の就業状況												
就業していない	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
就業している	0.86	0.78-0.95	0.86	0.81-0.92	0.82	0.77-0.87	0.88	0.79-0.97	0.89	0.84-0.94	0.85	0.80-0.90
育児休業中	0.98	0.91-1.05	1.01	0.87-1.16	0.89	0.77-1.02	0.99	0.92-1.06	1.02	0.88-1.17	0.91	0.79-1.05
暮らしの経済状況												
苦しい	1.45	1.35-1.55	1.61	1.51-1.72	1.56	1.46-1.67	1.47	1.37-1.58	1.64	0.53-1.75	1.59	1.49-1.70
普通	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
ゆとりがある	0.66	0.60-0.72	0.77	0.71-0.83	0.76	0.69-0.83	0.66	0.60-0.72	0.77	0.71-0.84	0.77	0.70-0.83
夫の育児												
ほとんどしない	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
している	0.86	0.76-0.98	0.83	0.74-0.92	0.86	0.77-0.95	0.82	0.72-0.92	0.76	0.69-0.84	0.80	0.72-0.88
児の性別												
女	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
男	0.99	0.93-1.06	1.02	0.96-1.08	1.08	1.02-1.15	0.99	0.93-0.92	1.02	0.96-1.08	1.09	1.03-1.15
児の出生順位												
第1子	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
第2子	0.70	0.65-0.76	0.85	0.80-0.91	0.75	0.70-0.80	0.69	0.64-0.74	0.84	0.79-0.89	0.74	0.69-0.79
第3子	0.46	0.42-0.51	0.59	0.54-0.64	0.55	0.50-0.60	0.45	0.41-0.49	0.57	0.53-0.62	0.54	0.49-0.59
第4子以降	0.38	0.32-0.45	0.42	0.36-0.50	0.36	0.30-0.43	0.37	0.31-0.44	0.42	0.36-0.49	0.36	0.30-0.43
居住している市区町村												
市†	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
政令指定都市	1.08	0.94-1.23	1.14	1.00-1.29	1.18	1.03-1.36	1.08	0.94-1.23	1.14	1.01-1.30	1.19	1.03-1.37
町村	1.00	0.91-1.09	0.93	0.86-1.00	0.99	0.91-1.07	1.00	0.92-1.09	0.93	0.86-1.01	0.99	0.91-1.07
特別区	0.91	0.74-1.12	1.00	0.80-1.24	0.88	0.70-1.11	0.93	0.75-1.14	1.01	0.81-1.25	0.89	0.70-1.12

* 各相談相手は、相談相手として「いる」と「いない」にカテゴリ化し、相談相手として「いない」を参照カテゴリとする。

† 「市」は、中核市、特例市、中都市、小都市を含む。

表5 「虐待しているのではないかと思う」を従属変数とした多重ロジスティック回帰分析結果

	相 談 相 手						相談相手の種類数					
	3~4 か月		1 歳 6 か月		3 歳		3~4 か月		1 歳 6 か月		3 歳	
	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI
相談相手												
夫	0.75	0.66-0.85	0.74	0.68-0.81	0.80	0.74-0.86						
祖母または祖父	0.71	0.64-0.79	0.75	0.70-0.80	0.76	0.72-0.81						
近所の人	0.92	0.80-1.06	0.85	0.78-0.94	0.92	0.85-1.00						
友人	0.97	0.88-1.07	0.95	0.89-1.01	0.93	0.87-0.98						
医師	0.82	0.70-0.96	0.78	0.70-0.88	0.91	0.82-1.02						
保健師や助産師	1.13	0.96-1.33	1.28	1.10-1.49	1.26	1.06-1.49						
保育士や幼稚園の先生	1.49	1.33-1.68	1.15	1.07-1.23	1.13	1.07-1.20						
電話相談	1.29	0.81-2.04	1.27	0.90-1.81	1.05	0.69-1.60						
インターネット	1.19	1.05-1.34	1.23	1.11-1.35	1.24	1.12-1.38						
その他	1.06	0.92-1.24	1.04	0.94-1.15	1.19	1.09-1.31						
相談相手の種類数												
誰もいない (0)							2.40	1.02-5.64	3.37	1.86-6.13	2.54	1.59-4.06
1							ref		ref		ref	
2							1.06	0.90-1.26	0.90	0.81-1.00	0.94	0.85-1.03
3							0.92	0.78-1.08	0.82	0.74-0.91	0.85	0.77-0.94
4							0.94	0.79-1.13	0.76	0.68-0.85	0.87	0.78-0.96
5							0.95	0.77-1.19	0.72	0.62-0.83	0.83	0.73-0.94
6以上							1.09	0.82-1.44	0.84	0.68-1.02	0.81	0.67-0.98
母親の出産時の年齢												
~19歳	0.81	0.43-1.53	0.92	0.64-1.32	0.75	0.55-1.03	0.81	0.43-1.51	0.91	0.64-1.31	0.75	0.55-1.03
20~24歳	1.02	0.85-1.22	0.96	0.86-1.07	0.91	0.83-1.00	1.01	0.84-1.21	0.96	0.86-1.07	0.90	0.82-0.99
25~29歳	1.02	0.91-1.14	1.03	0.95-1.11	0.96	0.90-1.03	1.01	0.91-1.13	1.03	0.95-1.10	0.95	0.89-1.01
30~34歳	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
35~39歳	0.84	0.75-0.95	0.84	0.77-0.91	0.89	0.82-0.96	0.84	0.75-0.95	0.85	0.78-0.92	0.90	0.83-0.97
40歳~	0.61	0.47-0.79	0.79	0.66-0.94	0.78	0.66-0.93	0.63	0.49-0.81	0.82	0.69-0.98	0.82	0.69-0.97
母親の就業状況												
就業していない	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
就業している	0.81	0.70-0.93	0.86	0.80-0.91	0.82	0.77-0.87	0.88	0.77-1.01	0.91	0.85-0.96	0.85	0.81-0.90
育児休業中	0.91	0.82-1.01	1.03	0.88-1.20	0.95	0.83-1.08	0.94	0.85-1.04	1.04	0.89-1.22	0.97	0.86-1.11
暮らしの経済状況												
苦しい	1.61	1.47-1.77	1.64	1.54-1.75	1.61	1.51-1.70	1.67	1.52-1.83	1.68	1.58-1.79	1.64	1.55-1.74
普通	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
ゆとりがある	0.86	0.74-1.01	0.88	0.79-0.97	0.89	0.81-0.97	0.87	0.74-1.02	0.88	0.80-0.98	0.90	0.82-0.98
夫の育児												
ほとんどしない	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
している	0.71	0.61-0.83	0.70	0.64-0.78	0.71	0.65-0.78	0.63	0.55-0.73	0.64	0.59-0.71	0.66	0.61-0.72
児の性別												
女	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
男	1.14	1.05-1.25	1.11	1.04-1.18	1.01	0.96-1.07	1.13	1.04-1.24	1.11	1.04-1.18	1.02	0.97-1.07
児の出生順位												
第1子	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
第2子	4.32	3.81-4.90	1.88	1.76-2.02	1.07	1.00-1.13	4.42	3.91-4.99	1.86	1.74-1.99	1.05	0.99-1.12
第3子	5.64	4.86-6.55	1.52	1.38-1.67	0.80	0.73-0.87	5.86	5.08-6.76	1.49	1.36-1.64	0.78	0.72-0.86
第4子以降	6.12	4.90-7.64	1.53	1.28-1.83	0.65	0.54-0.79	6.46	5.20-8.03	1.52	1.27-1.81	0.65	0.54-0.78
居住している市区町村												
市†	ref		ref		ref		ref		ref		ref	
政令指定都市	1.12	0.92-1.35	1.17	1.03-1.33	1.08	0.95-1.22	1.10	0.91-1.34	1.17	1.03-1.33	1.08	0.96-1.22
町村	1.02	0.91-1.15	0.97	0.89-1.06	0.98	0.90-1.05	1.02	0.90-1.15	0.97	0.89-1.06	0.98	0.91-1.06
特別区	0.82	0.56-1.19	0.96	0.75-1.23	0.86	0.68-1.08	0.85	0.58-1.24	0.98	0.77-1.25	0.86	0.69-1.08

* 各相談相手は、相談相手として「いる」と「いない」にカテゴリ化し、相談相手として「いない」を参照カテゴリとする。

† 「市」は、中核市、特例市、中都市、小都市を含む。

軽減させることを示唆している。加えて、海老原ら²⁵⁾は、子育ての中でのストレスが母親のコーピングによって解消されなかった場合に、情緒的サポートなどを含む他者のサポートによって問題解決へ導かれる可能性を示している。相談相手としての家族の存在は、母親の育児に対する対処行動を支援し育児不安を緩和させる可能性がある。

2) 保育士や幼稚園教諭のサポートとの関連
育児不安と保育士や幼稚園教諭のサポートとの関連については、相談相手として「保育士や幼稚園の先生」を選んだ母親は、「保育士や幼稚園の先生」を選ばなかった母親よりも育児不安が高かった。

先行研究によると、母親は家族からのサポートには日常的な子どもの世話や子どもについて話し合うことを求め、保育士からのサポートは育児方法のアドバイスやしつけに関する指導などを求めている²⁶⁾、また、保護者が保育士へ期待する専門性は「食育・発達支援」、「子育て支援」、「社会的養護」の3因子で構成されていること²⁷⁾が報告されている。

このことから、保育士や幼稚園教諭への相談は、家族への相談よりも高度で専門的なアドバイスや指導が求められている可能性がある。保育士からのサポートへの期待の高さゆえ、それが十分に満たされなかった場合は育児不安の高さにつながる可能性もある。

また、相談相手の構成をみると、多くの母親が相談相手として家族のサポートを持っており、家族を基本として他の相談相手が追加される傾向が示された。したがって、相談相手としての家族がいないため他の相談相手を選ぶという傾向は少ないと考えられる。これらのことから、育児不安の質が、育児不安の高さと保育士や幼稚園教諭との関連に影響している可能性が考えられる。

たとえば、家族への相談では解消できない強い育児不安を持つ母親が、専門的なアドバイスを求めて保育士や幼稚園教諭を相談相手として選んでいる可能性もあり、育児不安の高い母親が家族以外の相談相手（保育士や幼稚園教諭）を求めているという因果の逆転も考えられる。

3) インターネットのサポートとの関連

育児不安とインターネットのサポートとの関連については、相談相手として「インターネット」を選んだ母親は、「インターネット」を選ばなかった母親よりも育児不安が高かった。

インターネットによる乳幼児を持つ母親へのサポートの研究は少ない。小林²⁸⁾は、母親のインターネット利用は育児ストレス緩和との関連はなかったが、不安が高く対人関係で消極的な母親について

は、インターネット利用と育児ストレス緩和との関連がみられたと報告している。一方、1歳児の母親はインターネット依存得点と育児不安感に有意な正の相関があることも示されている²⁹⁾。育児不安の低減とインターネット利用については、先行研究の蓄積が少なく一致したエビデンスはない。可能性の1つとして、因果の逆転も考えられる。相談相手の構成をみると、3, 4か月児の母親は他の年齢の母親と比べると、インターネットを含んだ構成の割合が高かった。したがって、外出できず他者との交流が制限され育児不安が高まった母親が、インターネットを相談相手として選んでいる可能性も考えられる。

2016年における日本のインターネット利用者の割合は83.5%であり20歳代でのSocial Networking Support（以下SNS）利用者は76.6%を占める³⁰⁾、これから母親になる世代はSNS利用が日常生活に定着していることが推察されるため、今後はインターネット利用と育児不安との因果関係を詳細に検討することが望まれる。

2. 児の年齢別にみた母親の育児不安と相談相手との関連

すべての年齢の児の母親に共通した結果ではないが、相談相手としての「医師」の存在は育児不安の低さと関連し、「保健師や助産師」は育児不安の高さと関連する傾向がみられた。先行研究において、乳児期に心配だったことの解決のために相談した相手は「専門家」の割合が最も高く、乳児期での専門家のサポートの重要性が示唆されている³¹⁾。加えて、医学的な悩みに関する相談相手は「医師・病院」が高い割合を占めることが示されている³¹⁾。本研究結果で示された相談相手としての医師の存在と育児不安の低さとの関連は、先行研究結果を補強できると考える。加えて、母親の育児状況の認知に関わる育児ストレスは、夫や親族、友人サポートと比べると、専門家（園の先生・医師・保健師など）サポートが有意に強い負の相関がみられたことが報告されている³²⁾。

同じ専門職でも、相談相手としての保育士や幼稚園教諭、保健師や助産師の存在は育児不安の高さと関連があり、医師は育児不安の低さと関連があるという相違がみられたのは、児が乳幼児期の時は、湿疹や熱発、発達など医学的な悩みが多いことが原因の1つと考えられる。多くの母親は基本的には家族が相談相手として存在し、母親への情緒的サポートにおいて重要な役割を担っているが、医学的な悩みに関する育児不安が高くなると身近な専門職の相談相手（保育士や幼稚園教諭、保健師や助産師）を求め、最終的に医師に相談ができると育児不安が低減

する可能性が考えられる。

本研究結果において有意な関連が多くみられた専門職の情緒的サポートは、母親の育児不安に影響を与える重要な要因であることが示唆された。

3. すべての年齢の児の母親に共通した育児不安と相談相手の種類数との関連

育児不安と相談相手の種類数との関連は、すべての年齢の児の母親に共通した有意な関連はみられなかった。

サポート源の多さや世帯外ネットワークの規模の大きさが、育児不安の低減と関連があるという先行研究の報告^{15,16)}とは異なる結果となった。

その原因として、本研究の説明変数とした各相談相手が、育児不安の低さに関連している相談相手と、育児不安の高さに関連している相談相手を加算して相談相手の種類数のカテゴリーを作成したことが考えられる。

本研究では先行研究を参照し、相談相手の種類数が増えるごとに育児不安が低くなると仮定して分析を実施した。しかし、保育士や幼稚園教諭およびインターネットの存在は育児不安の高さに関連していることが示され仮定が否定された。相談相手の種類数が増えるということは、保育士や幼稚園教諭、インターネットなどが相談相手の種類数として加わることになり、結果として育児不安が高くなる。このため、本研究では先行研究と異なる結果となった可能性がある。

しかし、母親の相談相手の種類数は母親のサポートの多様性や多層性を表す1つの要因であると推察される。多様な相談相手はそれぞれ違う形で母親をサポートしている可能性があること、また、身近な人からのサポートが受けられなくなった時のセーフティネットとなる可能性もある。このことから、母親への情緒的サポートの定量的な分析は母親へのサポートを考察するうえで重要な視点であると考えられる。

4. 児の年齢別にみた母親の育児不安と相談相手の種類数との関連

1歳6か月児と3歳児の母親において、相談相手が「誰もいない」と回答した母親は、相談相手の種類数が「1」の母親と比べると育児不安が高かった。

相談できる人がいないことは育児困難感の関連要因であるという先行研究結果¹⁴⁾と一致した。本研究結果は全国データを使用し分析を実施したため、先行研究結果を補強できると考える。

乳幼児を持つ母親の情緒的関係からの孤立に関する研究は少ないためその要因は明らかでないが、相談相手が誰もいないと回答した母親は、人数が非常に少ないことから、相談相手がいる母親とは異なる

家族機能や背景を持つことが推察される。最も孤立しがちな母親は育児不安研究の中心に存在しないという問題点の指摘もあるため³³⁾、今後の研究において情緒的関係から孤立している母親を詳細に検討することが望まれる。

加えて、「虐待しているのではないかと思う」の項目でみた時、1歳6か月児と3歳児の母親では、相談相手の種類数が増えるごとに育児不安が減少する傾向が示された。

児の発達過程では、1歳から3歳にかけて身の回りのことが自立できるようになり、自我が育ち強い自己主張をするようになる³⁴⁾。児の行動範囲の拡大や強い自己主張は、母親が育児不安を持つ要因の1つであると推察される。児が2歳の時に育児に対するネガティブな感情が高まり、児の年齢が上がるにつれ緩和する傾向³⁵⁾や、2歳児の母親は1歳児の母親と比べて、子どもへの否定的感情や衝動的で抑制のきかない攻撃性を持つ母親の割合が有意に高い³⁶⁾ことが報告されている。加えて、子どもを叱る時に叩くなどの体罰を用いる親の割合は、10か月児、1歳半児、3歳児の親の順で増加することが示されている³⁷⁾。本研究結果においても、「虐待しているのではないかと思う」と回答した母親の割合は、児の年齢が上がるにつれて増えている。

これらのことから、児が幼児期の時は、児の発達に伴い母親の「虐待しているのではないか」という思いが高まるため、このような時期は家族からの情緒的サポートに加えて、専門職などと児の成長発達などについて話し合うことが必要になる時期と考えられる。したがって、本研究結果において1歳6か月児と3歳児の母親では、相談相手の種類数の多さ（言い換えると相談相手の多様性）が育児不安の低減と関連していた可能性がある。

5. 本研究の限界と可能性

本研究の限界として、横断研究であるため因果関係までは明らかにできなかったこと、母親のパーソナリティや抑うつ傾向などの残存する交絡因子が存在する可能性がある。また、子どもへの無関心さから育児不安兆候を表しにくい母親が存在する可能性が先行研究で指摘されている^{20,31,33)}。本研究においても育児不安がないと回答した母親の中で質的な差異があった可能性がある。

本研究の強みは、母親の育児不安と相談相手との関連を相談相手の質的要因と量的要因の2側面から全国的に検討したことである。これまでに母親の育児不安と相談相手のそれら2側面との関連を全国的に調査した先行研究はみあたらないため、結果の一般化可能性が期待できる。

育児不安が高まると母親の心身に影響を及ぼし、子どもの心身の発達を阻害する可能性がある。本研究結果から育児不安の低減には、夫や親などの家族からの情緒的サポートが重要な役割を担っていると見える。しかし、核家族化が進み、ひとり親世帯が増える³⁸⁾我が国の現状をふまえると、母親の育児不安を緩和するための、家族以外の人によるソーシャル・サポートのあり方を検討することは喫緊の課題である。本研究結果は、家族以外の専門職やインターネットによる情緒的サポートが育児不安緩和に効果的である可能性を示唆した点で、育児不安による母親の心身の不調の予防や、子どもの健やかな成長発達の阻害要因を予防する子育て支援施策の一助となり公衆衛生学的な視点からも大変意義深いと考える。

V 結 語

相談相手の質的要因では、すべての年齢の児の母親に共通して、夫、祖父母の存在が育児不安の低さと有意な関連がみられ、保育士や幼稚園教諭、インターネットの存在は育児不安の高さととの有意な関連が示された。相談相手の量的要因（相談相手の種類数）では、幼児期の児を持つ母親において相談相手の種類数の多さが育児不安を低減させる可能性が示唆された。

本研究は平成21年度厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業「健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究」（研究代表者：山縣然太郎）、（課題番号：H21-子ども一般-004）の助成にて行われた。

本研究の一部は第64回日本小児保健協会学術集会および第76回日本公衆衛生学会総会において発表をした。また、本研究は2017年度山梨大学大学院医工農学総合研究部修士論文の内容の一部である。本研究において開示すべきCOI状態はない。

（受付 2017.11.30）
（採用 2018. 4.27）

文 献

- 1) 原田正文. 子育ての変貌と次世代育成支援：兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防. 愛知：名古屋大学出版会. 2006; 179-180.
- 2) 厚生労働省. 「健やか親子21」最終評価報告書. 2013. <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11908000-Koyoukintoujoudoukateikyoku-Boshihokenka/0000034788.pdf> (2018年3月26日アクセス可能).
- 3) 荒牧美佐子, 無藤 隆. 育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い：未就学児を持つ母親を対象に. 発達心理学研究 2008; 19(2): 87-97.
- 4) 平野順子. 育児不安の関連要因にみられる地域差：東京都杉並区と江戸川区, 富山県富山市・高岡市を対象として. 家族関係学 2004; 23: 37-47.
- 5) 高橋有里. 乳児の母親の育児ストレス状況とその関連要因. 岩手県立大学看護学部紀要 2007; 9: 31-41.
- 6) 冬木春子. 乳幼児をもつ母親の育児ストレスとその関連要因：母親の属性およびソーシャルサポートとの関連において. 現代の社会病理 2000; 15: 39-56.
- 7) 池田隆英. 乳幼児をもつ女性保護者の育児ストレスの労働形態別にみた多母集団同時分析. 厚生指標 2013; 60(3): 9-17.
- 8) 渡辺弥生, 石井陸子. 母親の育児不安に影響を及ぼす要因について. 法政大学文学部紀要 2005; 51: 35-46.
- 9) 金岡 緑, 藤田大輔. 乳幼児をもつ母親の特性的自己効力感及びソーシャルサポートと育児に対する否定的感情の関連性. 厚生指標 2002; 49(6): 22-30.
- 10) 藤田大輔, 金岡 緑. 乳幼児を持つ母親の精神的健康度に及ぼすソーシャルサポートの影響. 日本公衆衛生雑誌 2002; 49(4): 305-313.
- 11) 水垣源太郎, 武田祐佳, 村井美咲. 奈良女子大学社会ネットワーク研究会 子育て期女性のサポート・ネットワークに関する調査報告書. 2013; 44-47. <http://nwudir.lib.nara-wu.ac.jp/dspace/bitstream/10935/3460/1/NWUSocialNetworkReport.pdf> (2018年5月10日アクセス可能).
- 12) 佐藤ゆき, 加藤忠明, 顧 艶紅. 4歳児の母親の不安抑うつ症状と周囲の育児サポート状況との関連. 小児保健研究 2015; 74(4): 506-512.
- 13) 草野恵美子, 小野美穂. 社会的な要因に関する育児ストレスが母親の精神的健康に及ぼす影響. 小児保健研究 2010; 69(1): 53-62.
- 14) 申 沙羅, 山田和子, 森岡郁晴. 生後2~3か月児がいる母親の育児困難感とその関連要因. 日本看護研究学会雑誌 2015; 38(5): 5_33-5_40.
- 15) 竹田小百合, 岩立京子. ソーシャル・サポートが育児ストレスにおよぼす効果について：特定のサポート源の違いおよびサポートに対する必要度との関連から. 東京学芸大学紀要（第1部門, 教育科学）50: 215-222.
- 16) 松田茂樹. 育児ネットワークの構造と母親の Well-Being. 社会学評論 2001; 52(1): 33-49.
- 17) 手島聖子, 原口雅浩. 乳幼児健康診査を通じた育児支援：育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要 2003; 1(1): 15-27.
- 18) 牧野カツコ. 乳幼児をもつ母親の生活と〈育児不安〉. 家庭教育研究所紀要 1982; 3: 34-56.
- 19) 原田 謙, 杉澤秀博. 都市度とパーソナル・ネットワーク：親族・隣人・友人関係のマルチレベル分析. 社会学評論 2014; 65(1): 80-96.
- 20) 赤枝尚樹. 新しい都市度尺度の確立に向けて：距離と移動時間に注目した都市度尺度の提案. 日本都市社会学会年報 2013; 31: 77-93.
- 21) 本村 汎, 磯田朋子, 内田昌江. 育児不安の社会学的考察：援助システムの確立に向けて. 大阪市立大学

- 生活科学部紀要 1985; 33: 231-243.
- 22) 荒牧美佐子, 田村 毅. 育児不安・育児肯定感と関連のあるソーシャル・サポートの規定要因: 幼稚園児を持つ母親の場合. 東京学芸大学紀要(第6部門, 技術・家政・環境教育) 2003; 55: 83-93.
- 23) 星 敦士. 社会的サポート・ネットワークと社会保障 育児期女性のサポート・ネットワークがwell-beingに与える影響: NFRJ08の分析から. 季刊社会保障研究 2012; 48(3): 279-289.
- 24) 渡辺弥生, 石井睦子. 乳幼児をもつ母親の育児ストレスにソーシャル・サポートおよび自己効力感が及ぼす影響について. 法政大学文学部紀要 2009; 60: 133-145.
- 25) 海老原亜弥, 秦野悦子. 保育園・幼稚園児を育てる母親の育児負担感: ストレッサー, コーピング, ソーシャル・サポートの関係. 小児保健研究 2004; 63(6): 660-666.
- 26) 日下部典子. 乳幼児を育てる母親のソーシャル・サポート希求と被援助志向性. 福山大学人間文化学部紀要 2014; 14: 53-61.
- 27) 大森弘子, 太田 仁, 水谷弘正. 保護者が期待する保育士の専門性: 保育士のキャリアパスを通して. 社会福祉学部論集 2014; 10: 1-10.
- 28) 小林 真. インターネットの利用が母親の育児ストレスに及ぼす緩和効果. 富山大学教育学部紀要 2004; 58: 85-92.
- 29) 藤岡奈美, 糸瀬聡美, 大竹李奈, 他. 1歳児の母親のインターネット使用状況が育児感情におよぼす影響. 母性衛生 2015; 56(1): 128-136.
- 30) 総務省. 平成28年通信利用動向調査の結果. 2017. http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/170608_1.pdf (2018年3月26日アクセス可能).
- 31) 岩田美香. 現代社会の育児不安. 東京: 家政教育社. 2000; 9-55.
- 32) 中村鮎美, 高橋道子. 母親の育児ストレスに関連する要因と精神的健康: 育児へのサポートに着目して. 東京学芸大学紀要(総合教育科学系) 2013; 64(1): 259-266.
- 33) 岩田美香. 現代社会の育児不安. 東京: 家政教育社. 2000; 99-185.
- 34) 厚生労働省. 保育所保育指針解説. 2018. <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf> (2018年3月26日アクセス可能).
- 35) 間三千夫, 関根 剛, 室みどり. 児の年齢階層別に見た母親の育児不安. 信愛紀要 2000; 40: 41-57.
- 36) 平岡康子, 松浦和代, 野村紀子. 乳幼児をもつ就労女性の育児ストレスと職業性ストレスの分析. 小児保健研究 2004; 63(6): 647-652.
- 37) 原田正文. 子育ての変貌と次世代育成支援: 兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防. 愛知: 名古屋大学出版会. 2006; 200-201.
- 38) 総務省統計局. 平成27年国勢調査 世帯構造等基本集計結果 結果の概要. 2017. <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka/kihon3/pdf/gaiyou.pdf> (2018年3月26日アクセス可能).
-

The relationship between parenting anxiety in mothers and the resources from which they routinely sought advice: The final “Healthy Parents and Children 21” survey

Sayaka YAMAZAKI^{*,2*}, Ryoji SHINOHARA^{3*}, Yuka AKIYAMA^{4*}, Kaori ICHIKAWA^{5*}, Toshiyuki OJIMA^{6*}, Koji TAMAKOSHI^{7*}, Kencho MATSUURA^{8*}, Yoshihisa YAMAZAKI^{9*} and Zentaro YAMAGATA^{4*}

Key words : parenting anxiety, social support, consultation, healthy parents and children 21

Objectives This study aimed to examine the relationship between parenting anxiety in mothers and the resources from which they routinely sought advice.

Methods Data consisted of the 75,662 survey responses from parents of children who had undergone health checkups between April and August of 2013. A logistic regression analysis was performed using parenting anxiety (computed using the responses to the two survey items “I don’t feel confident as a parent” and “I wonder if I’m mistreating my child”) as the response variable. The people or resources from which the mothers sought parenting advice and the number of such resources were used as the explanatory variables.

Results Across all ages, the percentage of mothers selecting “husband” as a parenting resource was the largest, and most mothers indicated they had three resources. Common across all ages, mothers who indicated that they had their husband or the child’s grandmother or grandfather as resources had a significantly lower odds ratio of having parenting anxiety than mothers who did not. In contrast, mothers who selected “nursery school or kindergarten teachers” or “the Internet” as resources had a significantly higher odds ratio of having parenting anxiety than mothers who did not select these resources. Across all ages, no significant relationship was found between mothers’ parenting anxiety and the number of resources they used for parenting advice. There was a significantly higher odds ratio of mothers of children aged 18 and 36 months who indicated that they wondered if they were mistreating their child if they had nobody to talk to than if they had one resource. When the number of resources increased to three, four, or five, the odds ratio was significantly reduced.

Conclusion For mothers of children of all ages, results showed that those who routinely sought advice from their husband or their child’s grandparents had a significantly lower probability of experiencing parenting anxiety. On the other hand, this probability was significantly higher when their resources were nursery school or kindergarten teachers or the Internet. This study also suggests that, for mothers of young children, having a larger number of people from whom to routinely seek advice may reduce their anxiety about their parenting ability.

* School of Nursing, Health Science University

^{2*} Department of Education Interdisciplinary Graduate School of Medicine, Engineering, and Agricultural Sciences, University of Yamanashi

^{3*} School of Health Sciences, Health Science University

^{4*} Department of Health Sciences, Basic Science for Clinical Medicine, Division of Medicine, Graduate School Department of Interdisciplinary Research, University of Yamanashi

^{5*} Faculty of Health Science Technology, Bunkyo Gakuin University

^{6*} Department of Community Health and Preventive Medicine, Hamamatsu University School of Medicine

^{7*} Department of Nursing, Nagoya University School of Health Sciences

^{8*} Health Promotion Nursing, School of Nursing, Fukuoka Prefectural University

^{9*} Aichi Children’s Health and Medical Center